

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第81号

2024(令和6)年10月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

情報の検索が容易に

— 第37号以降のタイトル一覧 —

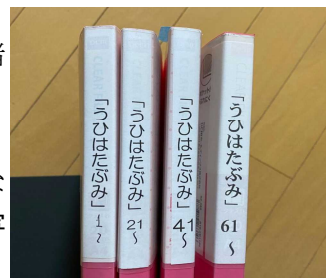
本誌第37号以降のタイトル一覧を、以下に掲げさせていただきます。本誌は月刊誌として2017(平成29)年1月26日に創刊しました。第60号(2021, 令和3年12月)までは定期刊行を続け、第36号(2019年12月)において一度タイトル一覧を掲載しています。第61号以降は不定期刊行としましたが、第74号より再度定期刊行を目指しています。

号	年	月	タイトル	号	年	月	タイトル
37	2020	01	綿のライブラリー—設立12周年を記念して	59	2021	11	漢方薬としての綿殻—綿殻の薬効2
38	2020	02	木綿製品の中でも上等品—真岡木綿、真岡	60	2021	12	大和機での4作品目—「ファイト」
39	2020	03	ライブラリー立ち上げの経緯—4種226部	61	2022	03	『本草綱目拾遺』の翻訳本—綿殻の
40	2020	04	赤わたと青わた—綿の品種と繰り綿の品質	62	2022	05	解決者ノ出ヅルヲ待ツ—綿殻の薬効4
41	2020	05	綿が取り持つご縁—吉田松陰、森田節斎、	63	2022	07	大和豊年米食わず—綿栽培普及の背景
42	2020	06	破天荒の創見を—収穫時の綿木、矮短の理	64	2022	09	交雑によることの証—メンデルの法則
43	2020	07	待望の大和機、来る—350年以上にわたっ	65	2022	11	スーピマ綿に間違いない—全国コッ
44	2020	08	染織工芸の継続を支え—日本竹箴技術保存	66	2023	02	古人の経験と智恵に学ぶ—棉栽培法
45	2020	09	大和機での2作品目—緯緋の工夫緋:「地上の	67	2023	05	中吹きを取りて種子とす—棉栽培法
46	2020	10	初めて糸をかけました—この機の特徴を明	68	2023	06	八十八夜の前後を見計らって—棉裁
47	2020	11	不思議はとにかく魅力的—草木染は理科の	69	2023	07	大和機での4作品目—経緯緋:「ファ
48	2020	12	心が震えるような鮮やかな色—紅花染めと	70	2023	08	呼称の混乱—鮮やかに整理、『GKZ 植
49	2021	01	固より一様ならず—綿の栽培株数と収量につ	71	2023	10	和綿と洋綿、棉か綿か—呼称の混乱2
50	2021	02	天理参考館の大和機—県内外他機との比較が	72	2023	12	目を疑う圧巻の綿畑—全国コットンサ
51	2021	03	大和機での3作品目—緯緋の工夫緋:「時代」	73	2024	01	ワタの品種特性—アブランド&スーピ
52	2021	04	綿の品質試験結果—HVI SPECTRUM1によ	74	2024	03	ワタの交雑、遺伝の不思議—品種特
53	2021	05	実わた目方の事—2020年産繰り綿の歩留り	75	2024	04	2023年産綿の品質試験結果—HVI—
54	2021	06	まるで博物館の世界—手織りの反物を嫁入り	76	2024	05	原綿品質試験の覚え書き—停止、そ
55	2021	07	綿殻に薬効があること—咳を和らげ、痰を	77	2024	06	大和機での5作品目—経緯糸ともに手
56	2021	08	あえて新種の誕生を期待—0ではないこと	78	2024	07	奇跡の綿種、受け継いで80年—韓国
57	2021	09	小倉織りの復活と再生—地域の伝統文化を	79	2024	08	二千鍾紡績に対する再評価—評価の
58	2021	10	緋の基本技法—経緯緋の工夫緋	80	2024	09	繊維の種類と分類—スフコンという言

サブタイトルは、スペースの関係で一部を省略しています。

第60号と第69号のタイトルが重なっていますが、間違いではありません。諸般の事情から大和機による4作品目は、機掛け(織りはじめ)から機下ろし(織り上げ)までこれだけの時間を要したことを示しています。

今回タイトルを一覧表にしたことで、過去に掲載した情報の検索が容易になりました。これまではその都度、紙媒体の本誌を綴じたポケットファイル(右写真)を開く必要があったからです。みなさまのご参考にもなれば幸いです。



----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和6年9月26日～令和6年10月25日)

0

【H. A. M. A. 木綿庵】(令和6年9月26日～令和6年10月25日)

メールを含む各種相談件数7、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数8組12名



《綿の栽培記録 2024》－ 令和6年度版 その7 －

10月下旬を迎え、ほんの少しですが収穫量が増えました。例年より1ヶ月遅れ、という見方もできるかもしれませんが。10月に入って少し雨が降ったことが影響しているのかもしれません。ただし、総量としてはおそらく例年の半分にも満たないと思われます。

今年の栽培を振り返って学んだことは、牛乳パックや鉢植え、プランター等で栽培した綿木の方が、コンパクトでありながらも確実に結実し、綿を吹かせたことです。江戸時代の綿栽培の絵や、戦前の綿畑の写真では、膝から腰までの高さで収穫している様子がうかがえます。本誌第42号参照。

また、超長繊維綿が昨年よりも早く10月初旬よりはじけはじめ、しかも例年よりもキレイにはじけています。本来の開絮期の違いが影響しているののかもしれません。来年の栽培計画を立てる上でぜひ参考にしたいと考えています。写真は左から無人販売コーナーの鉢植え、同牛乳パック栽培。天理市三島町にある教育施設のブロック花壇の様子。2段目は9月30日の収穫籠、10月14日の収穫籠と、10月22日の1号畑の和綿畝と洋綿畝



写真は左から9号畑の超長繊維綿栽培畝の様子、同花、同コットンボール3枚



【研修等の記録】

- 令和6年09月30日 大和絨の復元にも取り組んでおられる亀山知彦氏来畑。サミットについて協力依頼。
- 令和6年10月01日 天理市環境経済部部長様、農林課課長様来畑。サミットについてご相談。
- 令和6年10月08日 東横INN天理駅前の支配人様に面会。サミットの宿泊部屋確保に関してご相談。
- 令和6年10月13日 天理駅前コフブン広場にて「てんだいフェスタ」に出店。スピンドルを販売。
- 令和6年10月14日 「人と暮らしプラス研究所」様(京都府木津川市)3名来庵。綿花圃場と工房案内。